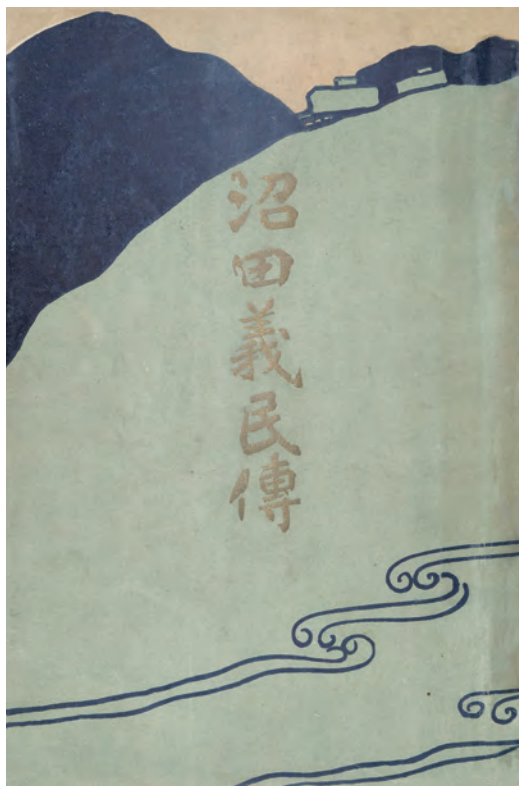


沼田義民伝

復刊版



群馬地域文化振興会

沼田義民傳

例言二則

一、やまご新聞の兩野版に連載せる「義民茂左衛門」は、讀者諸君の切なる御勧めに依りて、茲に名を「沼田義民傳」と改め、新裝を凝らして上梓する事となりました。元より匆卒の際に口述致しましたのを、又取忙いで印刷した事にて、文章も思ふ如く訂正が出来ず、誤字や脱字なども極めて多く、嗚ぞ讀み悪い事と存じますが、大體に於て茂左衛門の精神丈は發揮した積りで御座いますから、此の點に於て諸君の御諒承を願ひます。

二、本書の出版について、沼田町の有志小野善兵衛、やまご新聞前橋支局長手塚朋一郎、同字部宮支局長高松實の諸氏は材料の選擇に奔走され畫家近藤紫雲君には口繪を、畫家本間國雄君には裝幀の意匠を、沼田町出身の文士生方敏郎君には跋を書いて戴きました。茲に謹んで感謝の意を表します。

大正元年十二月中旬

やまご新聞編輯局にて

著者 藤 澤 紫 紅



以思以言來佛誦誦
 一海濱南...
 石大市...
 勤...
 天和...
 竹村...
 德武...

義民之訴狀



茂左衛門の跡と月夜の橋

沼田義民傳

前編

第壹回

藤澤紫紅口述
水澤紫電速記

山秀やまひでで水清みづきよく澄すみましたる處ところには得えて大人物おとなぶつ出いづるの習なひ、然さればにや上州じやうしゆの如ごとき赤城あかぎ、榛名はらな、妙義みょうぎの三名山ななな初はじめ四面よんめん疊かさねたる山岳さんかくを以もつて圍繞おもむきされました上うへ、清冽せいれつ水晶すいしゆよりも清きよき大和根おほほねの流ながを控かまへたる土地とちよりは其水そのみづよりも清きよき心こころの人々ひとびとが古來こらい頗すこる多く出いで、居をります。吾わがが中なかに於おいて最もも世間よせけんに其名そのなを知られて居をりますのが、元弘げんこう建武けんぶに跨またり後醍醐ごたいご天皇てんのうの勅諭ちくごを畏かしこみ奉ほうじ、天下てんかに率先そつせんして勤王きんわうの旗はたを翻ひし、時ときの執權しつけん北條高時ほつじょうたかときを攻せめ亡ほろし、足利あしかが尊氏たかうぢと戦たたかひて越前えちぜんに討死うちじしたる新田にった左中將さちゆうじやう義貞公ぎてんこう、又また三條さんじやうの大橋おほはし

より遙かに皇居を拜して末世に其名を轟かしたる高山彦九郎正之其れと是とは異れど
 義の爲には火水の中をも敢て辭せず弱きを助け強きを挫く國定忠治、大前田英五郎の
 如き大俠客、又本所に過ぎたる者が二つあり、津輕大名炭鹽原と世上に謳はれまし
 たる商傑鹽原太助の如き甚だ意思の堅固ある人も御座いました。今回辯じまするは鹽
 原太助の出でました新治村とは程遠からぬ同じ利根郡は桃刈村大字月夜野町に起りま
 した義民の物語で御座います。下總佐倉領にありましたる木内宗吾と申せば誰れ知ら
 ぬ者も無い程有名な義民で御座いますが、恰度此事件の落着致しましてから十二年
 の後に起りましたる義民茂左衛門といふ人物の傳記は、僅かに土地の人々の外は世間
 に多く知つて居ります者は御座いません、譬へば戦争などに赴きましても克命に働く
 者は鐵砲丸の的とあつて生命を殞した上左程の功勞も認められぬ者が多ふ御座います
 が、狡猾に如才なく立廻る者は功何級かの金鵄勳章を授けられ錦を飾つて凱旋するな
 ど、同じ事を致しましても其人の運不運、宗吾の方は立派な神社に祀られて居りまし
 ても此の茂左衛門の方とは云へば、口繪の寫真に示します通り形ばかりの堂内へ一基

の地蔵に刻まれました、線香の爲めに燻ぶり返つて居ります、衰れ果敢なき有縁、
洵に氣の毒千萬の事と編者も昨年の暮此事實を取調べの爲め彼地に赴きましたる砌り
思はず知らず涙を滾したる位、定めし一身を犠牲にして沼田領百七十七ヶ村の民草
を救ひましたる茂左衛門に於きましては地下に熱涙を流して居られるだろうと存じま
す。

第二回

却説、茂左衛門といふ人は姓を杉木と名乗りました、只今以て月夜野町へ参ります
と、杉木姓の家が澤山御座いまして皆茂左衛門の縁者だと申して居ります、平の百姓
では御座いますが、性來頗る義氣に富んで居りまして、自分が中農として然まで生活
向に困難を致しませぬ處から、小作人や憐む可き者と見れば金銭穀類等を惜氣もなく
恵みましたさうで、其故村の者一同も茂左衛門様茂左衛門様と誰一人として尊敬ぬ者
は無い位であつたと申します、尤も此人の先祖は代々義心に富み且つ慈悲善根を施した